

厚生労働科学研究における取り組み

平成27年度の厚生労働科学研究において、次の研究を実施しており、今後の地域医療構想の実現に資するよう、得られた研究成果等を広く関係者と共有することとする。

<研究課題名>

病床機能分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究

○研究代表者

奈良県立医科大学 健康政策医学講座教授 今村 知明

○研究概要

- ・ 地域医療構想の実現に向け、具体的に地域医療構想を達成するための、データ分析及び地域における医療連携の取り組みを収集し、課題等を整理し、より具体的な病床機能分化・連携に繋がる方策についての研究。
- ・ 奈良県内の病院について、病床機能報告等を基にした分析や、疾病ごとの医療機関へのアクセスといった医療提供体制の分析、他県における先進事例の収集などを実施。

病床機能分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究

【地域における医療・介護の課題】

- ・ 医療の高度化と超高齢社会が進展。
- ・ 財源や資源は有限。
- ・ 病院間での役割分担、連携、効率的な病床運用が不明確。
- ・ 地域における医療・介護ニーズへの適切な対応。

【研究の目的と内容】

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、医療・介護サービスの需要が著しく増大する。一方で、我が国の医療提供体制は、他の先進国に比べ長い平均在院日数等、更なる効率化が必要である。そのため、病床の機能・分化等の施策に関する分析・整理を実施。

- ・ 病床機能の分化・連携に関する好事例の収集
- ・ 奈良県をモデルとした分析方法の検討等

【研究で期待される成果】

- ・ 医療資源の集約や、連携の程度など、地域での診療パフォーマンスの要因が明らかになる。

↓

- ・ 拠点化や連携強化が診療の質、効率、アクセス等に及ぼす影響の推定。
- ・ 地域医療計構想・計画を実現するための、効率性を改善し、質・アクセスを維持・向上させるための具体的なシステム設計。
- ・ 専門的知見と実務的知見を踏まえた提言。

- 【効率的・効果的な地域医療構想実現にむけて】**
- ・ 医療システムは、質やアクセスを維持・向上させながら、より効率的なものにする必要がある。
- ↓
- ・ 病床機能報告やNDB・DPCなどのデータの解析を駆使して、地域での医療の需要等を可視化。
- ↓
- ・ これに対応可能な医療提供体制を構築していくための、分化・拠点化・連携強化を設計する方法論を構築する。

